

(別紙2) 《議員用》

令和6年 8月 26日

狭山市議会議員
太田博希 様

研修議員氏名

丸橋ユキ  印

視 察 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

- 1 期 間 令和6年 8月 7日 (水) (1日)
- 2 視 察 先

京都市役所 建設局 みどり政策推進室

3 調査事項

京都市の「雨庭」と雨水対策について調査

4 視察概要

別紙のとおり

視察報告（於・京都市役所建設局みどり政策推進室）

「雨庭」と雨水対策について

2024 年 8 月 7 日 13:30-15:00

丸橋ユキ

視察目的

「雨庭」による雨水対策について聞き取り調査。

お話：京都市役所建設局緑政策推進室

豊田幸宏氏（緑化推進課長）

遠藤和壮氏

■ 雨庭とは

地上に降った雨水を直接下水に流すことなく、一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間。地下水涵養、雨水流出抑制、修景・緑化、水質浄化、ヒートアイランド現象緩和などの効果がある。

■ 京都市の雨庭

京都市では平成 29 年度から令和 5 年度までに 14 か所の雨庭を整備。令和 2 年から国の交付金で整備。雨水流出抑制機能に加え、京都の伝統的な造園技術が活かされたデザイン性を兼ね備えたものとなっている。

京都市では 3 つの観点を重視して雨庭を取り入れた。

- ・「雨水流出抑制」の観点
- ・「良好な景観形成の観点」
- ・「コミュニティの交流の観点」

施工は、寺院を手がける造園業者。造園業なので、予算の範囲でデザインやコンセプトを提案してくれる。



京都市 公式サイトより

■ 場所の選定

- ・雨水を集めやすい地形
- ・人通りが多いところ（多くの人に見てもらえる）
- ・浸水が起きた場所

■ 四条堀川：最初の雨庭（平成 29 年度整備）

「ここを緑化してほしい」という市民の声があった。市民公募型緑化取組事業。業者より「竹カバーを寄付したい」と申し出があり、柵にカバーを設置。見た目が良くなった。5 年ごとに劣化するが、「メンテナンスもやるよ」と言ってくれた。その斜め前の雨庭も造園業者が草刈り、維持管理を寄付で申し出てくれた。

■ 東山区六原の雨庭（令和 2 年度整備）

傾斜の行き止まりに家があって床上浸水していたところ、雨庭整備後は解消したと住民が喜んでいる。

■ 東大路仁王門の雨庭（令和4年度整備）

もともと緑のあった場所に雨庭を作ると、かえって緑がなくなり寂しくなるケースもあるので、交通の支障にならないところは木を残していこうと、ここでは銀杏を残した。

■ 構造

州浜（砂利を敷き詰めた部分）の深さは50cm。砂利層に土が混ざらないように底に土木シートを敷いている。泥溜め枡（ます）をつけた。枡に泥水が入り、泥は溜め、水だけが側壁の穴からしみ出す仕組み。メンテナンス時に泥をかき出す。1時間あたり3mmの雨を雨庭で取り込むことができるよう（設計浸透強度3mm/h）、流域の水を取り込むように作っている。ゲリラ豪雨の時にはどんどん水を取り込んでいく様子がわかる。

■ 通常の植栽帯との違い

州浜があること。雨水を一旦「貯める場所」として州浜が必要。下水に直接流さないためには、土があればいいわけではない。植栽帯はそこに降った雨がしみこむだけだが、雨庭は道路からも水を集めて入れ込む構造。

■ 設置費用

年によっても違うがだいたい1平米あたり10万円前後。工夫として、廃材を再利用している。景石には、過去の公共施設の橋梁や市電の敷石を活用。再整備した時に発生したものが土木事務所にストックされている。

■ メンテナンス

「京都市街路樹サポーター制度」の市民ボランティアに水やりをできる範囲でお願いしている。街路樹管理の業者にも水やりをお願いし

ている。草刈りは年2回。2回だけだと綺麗に保てないので、街路樹サポーターに日常のゴミ拾いや草刈りなどもやってもらっている。

■ 維持管理予算

行政による草刈り2回（業務委託）。泥上げは職員が行う。

■ コミュニティ交流の面での成果

雨庭を設置したところは、元々街路樹サポーターがなかった場所なので、サポーターの人数が増えた。街中では、一般の住民よりも、企業がサポーターになっているところもある。また、サポーターがいないところもある。

■ 課題

- ・雨水の流出抑制効果をもっと数字で示したい。設置前と設置後をわかりやすく数字で示せないことが課題。しかし、数字で示せなくても確実に効果はある。
- ・猛暑かつ雨が少ない。アスファルトの地帯。植栽が枯損。タマリユウやヤブランが枯れた。今後は夏場の暑さや乾燥を考えて、乾燥に強い植物を選ぶ必要がある。

【所感】

ゲリラ豪雨も増えている中、グリーンインフラとして雨庭のような取り組みは効果的だと思う。環境保全の観点から雨庭に関心を持っていたが、京都市では「コミュニティ交流」の観点も大切に効果を上げていると聞き、興味深く感じた。

京都の雨庭の現地は、昨年10月に個人的に複数箇所を見てきたが、ゆとりを感じさせる空間となっていて、狭山市でもポケットパークとして雨庭を導入できないものかと思う。